

## 院長の個人的な意見

まずは、子宮頸がん予防ワクチン接種後に CRPS（複合性局所疼痛症候群）などの病気にお悩みのご本人及びご家族に深くご同情申し上げます。

今回、子宮頸がん予防ワクチンの接種におられると思われる CRPS が副作用として発症し、症状が軽快しない方がいらっしゃるということ、ワクチンとの因果関係がはっきりしないことで、厚生労働省は積極的接種の勧奨を控える という結論を出しました。

しかし、子どもの CRPS については、まだ十分知られておらず、国内でも自然発生率などのデータはありません。

Sandroni.P らの米国 Olmsted 地方の住民を対象にした研究では、CRPS I の発症率は 1 年間で 10 万人につき 5.46 人 (0.00546%)、罹患率は 10 万人につき 20.57 人 (0.02%) だといわれています (住谷、2009)。我が国における CRPS に関する疫学調査はこれまで一度も実施されたことがなく、正確な人数は不明ですが、2008 年に開催された「CRPS セミナー」において、住谷 (2008) が 10 万人に約 5 人 (0.005%) の発症率と報告していることから国内にはおよそ 6500 人の患者が存在していると推測されます。男女とも罹患しますが、発生率は女子のほうが高く、特に小児では女兒のほうが多いそうです。今回、子宮頸がん予防ワクチン接種後に、因果関係がまだはっきりとしておりませんが、CRPS を発症する頻度は 210 万接種に 1 回と厚生労働省は発表しております。

また、メディアなどが他のワクチンと比較して副作用が非常に多いという報道をしておりますが、接種部位の疼痛・腫脹が発生頻度として高いために、他のワクチンと比べてとても重大な副作用が起こりやすい印象を受けられるかと思いますが、決してそうではないと私は認識しております。

また、ワクチン発売メーカーによる資料では、オーストラリアではこのワクチンにより人パピローマウイルスによる感染者の減少が認められており、ワクチンの有効性もあると思われま

す。ワクチンによって得られる効果と頻度は低いと思いますがワクチン接種により起こる副作用について十分にお考えいただき、接種についてよくご検討いただければと思います。

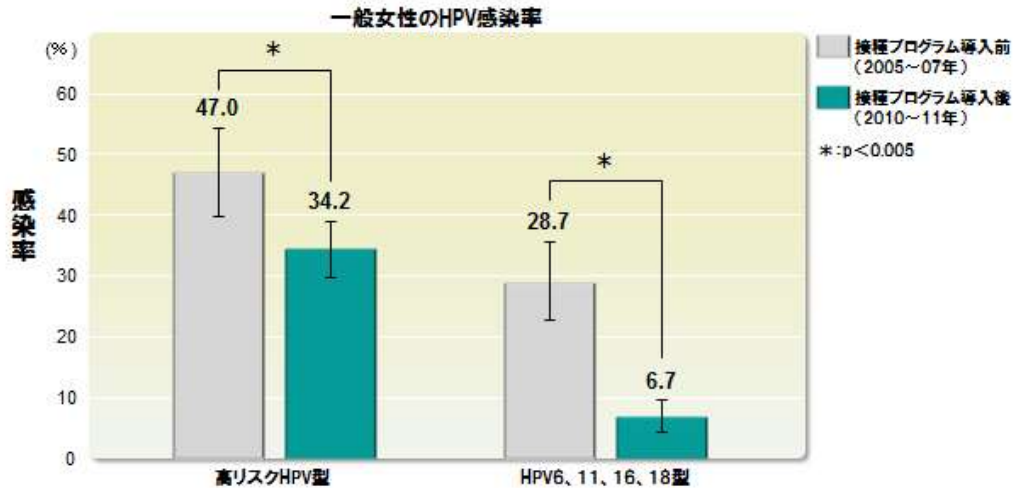
下記にワクチン発売メーカー (MSD) がまとめたデータですが、オーストラリアで子宮頸がん予防ワクチン (ガーダシル) の接種を始めたことで、ヒトパピローマウイルスへの感染率を下げ、尖圭コンジローマ患者の割合が下がり、子宮頸癌病変の発生率が低下している資料をお示しします。海外では子宮頸がんワクチンの効果が証明されはじめています。



## オーストラリア予防接種プログラム 開始後のHPV感染率の低下

海外データ

- 3大都市(パース、メルボルン、シドニー)で登録された18~24歳の一般女性において、接種プログラム導入後、高リスクHPV型の感染率、HPV6、11、16、18型の感染率ともに有意に減少した。(  $\chi^2$  検定)



Tabold SN et al. *J Infect Dis* 2012; 206(11): 1645-1651.



## オーストラリア予防接種プログラム 開始後の新規尖圭コンジローマ患者割合の減少

海外データ

- 予防接種プログラム導入後4年で21歳未満の女性患者割合が約90%減少した。



【施設】メルボルンセクシャルヘルスセンター

【期間】2004年7月~2011年6月

【対象】21歳以下女性(HPVワクチン接種プログラム対象)、21歳以下男性、22歳以上(女性・男性)、男性同性愛者

【方法】新規患者に占める尖圭コンジローマの割合を6ヵ月毎に調査、HPVワクチン接種プログラム開始前後でその割合を比較

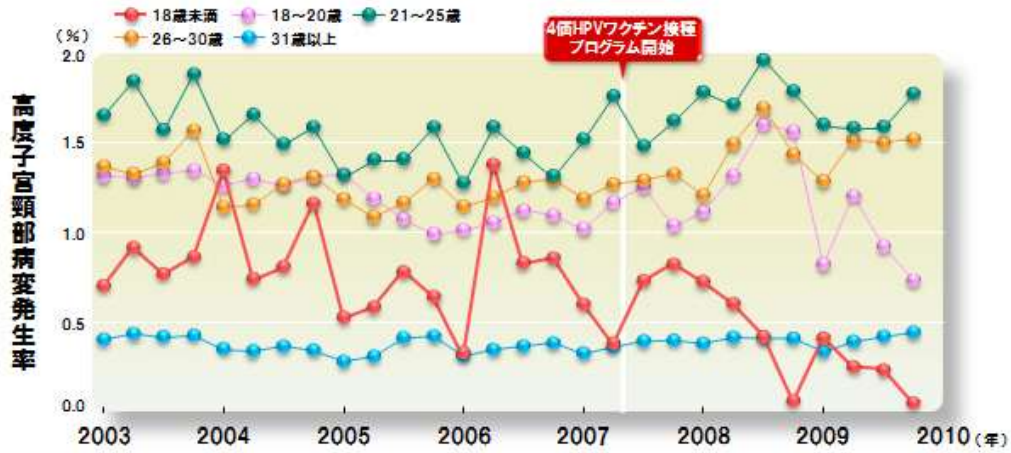
Read TR, et al. *Sex Transm Infect* 2011; 87(7): 544-547.



# オーストラリア予防接種プログラム導入前後の 高度子宮頸部病変(CIN2+, AIS)発生率の推移

海外データ

18歳未満の女性において、4価HPVワクチン接種プログラム実施後に  
高度子宮頸部病変(CIN2+, AIS)発生率の低下が認められた



【対象】 ビクトリア州(オーストラリア)に居住している女性

【方法】 2003年~2009年の子宮頸部細胞診登録システムのデータを用いて、  
4価HPVワクチン接種プログラム導入前後の高度子宮頸部病変および低度細胞診  
異常の発生率を5つの年齢群で比較した。